

131 渡嘉敷ペーケー(下)

(塩がうまい・低頭門)

話をして、王様にね、

「王様が一番おいしいものは何か」と問うたそうですよ。

「そうだねえ、僕が一番おいしいのは豚肉かねえ」と言ったら、

「違います。一番おいしいのはね、人間が一番おいしいのは塩。塩で味をつけると何でも、豚肉でもおいしい」。で、自分の家と呼んでね、招待して。また、この人の家は茅葺で、小さい家だったそうですよ。で、わざわざ王様を呼んでね。門の前にはこう、ガジマルって大きい木があったそうですよ。わざわざ腰曲げて入らんとこの家には行けないようになっておった。で、これはまた、王様に礼をさせたといって、また自分が自慢してね。

そして、僕が一番おいしいご馳走を作ってあげるからと。で、何も入らない味噌汁の、何も、だしも入ら

ない、これを上げたって。

「あんたの一番おいしいのは、こんな野菜も入らない、何も入らない、豚肉も入らないような。おいしいのはこれに塩を入れたらね、一番おいしいのはこの塩だよ」と、王様に教えた。

そして、この人も賢い王様だったそうですよ。

字与座 伊敷清保